

- 32.いや、月に誓けて、
- 33.退こうとする、夜に誓けて、
- 34.また輝こうとする、暁に誓けて（誓う）。
- 35.それは大きな（徴の）一つであり、
- 36.人間への警告。
- 37.あなたがたの中、前に進むことを望む者、また後に残ることを願う者への（警告である）。
- 38.それぞれの魂は、その行ったことに対し、（アッラーに）担保を提供している。
- 39.右手の仲間は別である。
- 40.（かれらは）樂園の中において、栗いに尋ね合うであろう。
- 41.罪を犯した者たちに就いて、
- 42.「何が、あなたがたを烈火の中に導いたのですか。」と。
- 43.かれらは（答えて）言う。「わたしたちは礼拝を捧げていませんでした。
- 44.わたしたちはまた、貧者を養いませんでした。
- 45.わたしたちは空論の徒と共に無駄話に耽り、
- 46.常に審判の日を否定していました。
- 47.遂に真実が、わたしたちに到来しました。」
- 48.それで執り成す者の執り成しも、かれらに役立たないであろう。
- 49.一体訓戒から背き去るとは、かれらはどうしたのでであろう。
- 50.かれらは丁度獅子を見て恐怖に陥ったロバのように、
- 51.一目散に逃げ出すかのようであった。
- 52.いや、かれらはそれぞれ開かれた書巻が授けられることを望んでいる。
- 53.いや断してそうではない。かれらは来世を恐れていないのである。
- 54.いや、これは正に訓戒である。
- 55.だから誰でも欲する者には、それを肝に銘じさせなさい。
- 56.だが、アッラーが望まれる者の外は、留意しないであろう。かれは畏るべき御方よく許して下される御方である。

SURA 75.復活章〔アル・キヤーマ〕

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

- 1.わたしは、復活の日において誓う。
- 2.また、自責する魂において誓う。
- 3.人間は、われがかれの骨を集められないと考えるのか。
- 4.いや、われはかれの指先（の骨）まで揃えることが出来るのである。
- 5.だが人間は、かれの御前（の生活）においても、罪を犯すことを望む。
- 6.かれは、「復活の日はいつか。」と問う。
- 7.遂に目が眩む時、
- 8.月は（蝕？）けり、
- 9.太陽と月は合わせられる。
- 10.その日人間は、「どこに避難しようか。」と言う。
- 11.断じて避けられないのである。
- 12.あなたの主の御許が、その日定め住まいである。
- 13.その日（凡ての）人間は、既に行ったことと、後に残したことに就いて各げられるであろう。
- 14.いや人間は、自分自身に対し証人である。
- 15.仮令かれが、いろいろ弁解しても。
- 16.この（クルアーンを催促するために）あなたの舌を急がしく動かしてはならない。
- 17.それを集め、それを読ませるのは、われの仕事である。
- 18.それでわれがそれを読んだ時、その読誦に従え。
- 19.更にそれを解き明かすのも、本当にわれの仕事である。
- 20.いや、あなたがたは（果ない）浮世を愛して、
- 21.来世を等閑にする。
- 22.その日、或る者たちの顔は輝き、
- 23.かれらの主を、仰ぎ見る。
- 24.またその日、或る者たちの顔は暗く、
- 25.背骨を砕く程の大災難が、かれらに降り掛かることを知るであろう。
- 26.いや、（魂が）喉元に届く時、
- 27.言われよう。「誰か、呪いが出来るか。」

- 28.かれは離別（の時）であることを悟るであろう。
- 29.一つの脚は他方の脚に絡まり、
- 30.その日かれは、主に駆り立てられる。
- 31.かれは真理を受け入れず、また礼拝も捧げなかった、
- 32.却って（真理）を虚偽とし、背き去り、
- 33.思いあがって家族の許に赴いた。
- 34.あなた（多神教徒）に災いあれ、（本当に）災いなるかな。
- 35.重ねていう。あなたに災いあれ、（本当に）災いなるかな。
- 36.人間は、（目的もなく）その儘で放任されると思うのか。
- 37.元々かれは射出された、一滴の精液ではなかったか。
- 38.それから一塊の血となり、更にアッラーが、（均整に）形作り、
- 39.かれは、人間を男と女の両性になされたのではなかったか。
- 40.それでもかれには、死者を甦らせる御力がないとするのか。

SURA 76.人間章〔アル・インサーン〕1

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

- 1.人間には、なにものとも呼べない、長い時期があつたではないか。
- 2.本当にわれはかれを試・るため混合した一滴の精液から人間を創った。それでわれは聴覚と視覚をかれに授けた。
- 3.われは、人間に（正しい）道を示した。感謝する者（信じる者）になるか、信じない者になるか、と。
- 4.不信心者には、われは鎖と首枷と烈火を準備して置いた。
- 5.（信者の）善行者は、カーフルを混ぜた杯（の飲物）を飲むであろう。
- 6.（それは）アッラーのしもべたちが飲む泉のことで、われは思いのままに滾々と（泉を）涌き出させる。
- 7.かれら（善行者）は誓いを果し、災厄の広がる日を恐れている。
- 8.またかれらは、かれを敬愛するために、貧者と孤児と捕虜に食物を与える。
- 9.（そして言う。）「わたしたちは、アッラーの御喜びを願って、あなたがたを養い、あなたがたに報酬も感謝も求めません。
- 10.わたしたちは、主の苦渋に満ちた御怒りの日を恐れます」。